

第 4 学年 社会科学習指導案

1 単元名 「特色のある地域と私たちの暮らし 焼き物をつくるまち」 (東京書籍 pp. 150～159)

2 単元について

- 本単元は、小学校新学習指導要領解説社会編の第 4 学年の目標及び内容(5)を受け、設定したものである。具体的には、「県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること」「地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること」「特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること」をねらいとする内容として位置付けられている。

児童の住む嬉野市嬉野町(以下、嬉野町)は、土地の特性を生かし茶の栽培が盛んな地域である。嬉野町は、なだらかな山間地で霧深く、昼夜の温度差があり、日照量などの条件が茶の栽培に適している。嬉野町で栽培される嬉野茶は、毎年行われている全国茶品評会において何度も最高賞を受賞しており、多くの人に愛されている。その嬉野町と比較しながら地域の特色を捉えることができると考え、本単元では、有田町を取り上げることにした。有田町は、佐賀県の西部に位置し、田園地帯や黒髪連山など変化に富む自然に恵まれた人口約 2 万人の町である。この町でつくられる有田焼は世界的にも有名で、毎年ゴールデンウィークに行われる陶器市には、約 120 万人もの人々が焼き物を買いに全国各地から訪れる。今から 400 年程前、豊臣秀吉によって朝鮮出兵が行われたとき、朝鮮から日本に連れてこられた陶工の金ヶ江三兵衛(李参平)が有田町で磁器の原料となる陶石を見付け、日本で最初の磁器づくりに成功した。これが有田焼の始まりと言われる。有田町には、焼き物をつくる窯元や工場のほかにも、焼き物売る店が並び、多くの人々が焼き物に関わる仕事をしている。また、焼き物関係の製品が多く出荷され、「焼き物のまち」と呼ばれている。

伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域として有田町を学習することで、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解することができると考え、本単元を設定した。

- 本学級の児童を対象に、社会科の授業に関する意識調査を行ったところ、質問「自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している」に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童は 24 名中 18 名であった。毎時間の学習の振り返りの記述を見てみると、本時の学習についての記述はできているものの、単元の学習問題についてこれまで調べたり考えたりしたことを基に自分の考えを記述している児童は少なかった。このことから、学習問題解決のために毎時間学習しているにも関わらず、児童は 1 時間ごとの学習課題に比べ、単元を通した学習問題を解決するという意識は薄いのではないかと考えられる。児童が単元を通して学習問題を意識し学習を進めることができるように、学習問題を設定する際の手立てを工夫する必要がある。9 月単元「ごみのしよりとその利用」において学習問題を設定した際には、24 名中 22 名が資料を基に疑問をもち、調べたいことを記述することができていた。しかし、疑問を基に適切な学習問題を設定することができた児童は、11 名であった。児童にたくさんの気付きや疑問をもたせた上で、予想を交流させたり、自分の言葉で学習問題を考え表現する場を設定したりすれば、切実感をもって、単元の学習に取り組むことが

できるようになると考える。

- 本単元では、学習問題を学習問題Ⅰ「有田焼は、どんなれきしがあり、どうやって作っているのだろうか。」と学習問題Ⅱ「有田町は、有田焼を使ってどのようなまちづくりをしているのだろうか。」の2つを設定し学習を進めていく。学習問題Ⅰの「学習問題をつかむ」過程では、自分たちの住む嬉野町の茶畑の風景と有田町の窯元の煙突が立ち並ぶ風景の写真を比べ、嬉野町はお茶が盛んであるが、有田町は焼き物が盛んであるという事実に出会わせる。さらに、轟小学校では学校行事の一環で茶摘みやお茶揉みを体験するが、有田町のある小学校では学校に窯が有り、焼き物づくりを体験していることを紹介し、有田焼が地域に根差していることを印象付けたい。そして、有田焼に注目させるために有田焼と100円均一のショップに売られている焼き物を見せ、見た目や値段の違いに注目させることで「なぜ有田町で焼き物が盛んなのか」「いつから始まったのか」という「れきし」と「どのようにしてつくっているのか」という「つくり方」に疑問をもたせ、学習問題Ⅰを設定する。その後、学習問題Ⅰの解決に向けて、有田焼について知りたいことを基に学習計画を立てさせる。「調べる」過程では、学習問題Ⅰを解決させるために有田焼の歴史的背景とそのつくり方について、副読本「わたしたちの佐賀県」や有田焼に関する資料を基に歴史的背景とそのつくり方について調べさせる。また、実際に有田町に見学へ行き、有田町の様子を見たり、有田焼の商店や窯元の人に話を聞いたりさせることで、有田焼に関わる人々の様子やその思いについて調べさせたい。「考え・まとめる」過程では、有田焼について調べて分かったことを学習問題Ⅰの答えとしてワークシートに記述し、「調べる」過程で調べたことや考えたことを交流させたい。

学習問題Ⅱの「学習問題をつかむ」過程では、窯元の煙突をサンタの人形がよじ登っている写真（有田町黒牟田応法地区）と「秋の有田陶磁器まつり」のダイレクトメールのパフレットを見せ、「なぜ窯元の煙突にサンタがいるのか」「パフレットをなぜたくさんの人に送っているのか」「有田陶器市以外にも焼き物のイベントがあるのか」という疑問をもたせ、学習問題Ⅱを設定する。「調べる」過程では、副読本「わたしたちの佐賀県」や有田焼に関するパフレット等の資料を基に、有田焼に関連したまちづくりや観光について調べさせる。そして、「考え・まとめる」過程では、有田町の人々が協力し、特色あるまちづくりについて調べて分かったことを学習問題Ⅱの答えとして記述し、「調べる」過程で学んだことや考えたことを交流させたい。

学習問題Ⅰで主に有田焼について学び、その上で学習問題Ⅱとして有田焼と有田町のまちづくりや観光とのつながりを調べることで、本単元のねらいである有田町の人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解させたい。

3 単元の目標

特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で意欲的に調べ、新聞にまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して県内の特色ある地域では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにする。

4 評価規準

【現行の評価の観点による評価規準】

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○伝統的な技術を生かした有田焼が盛んな有田町に興味をもち意欲的に調べている。	○資料や写真についての気付きや疑問をもち、学習問題を考え、表現している。 ○学習問題の解決に向けて調べる必要があることとその方法について考え、ワークシートに記述している。 ○有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色について考え、適切に表現している。	○副読本や資料、インターネットのWebページ、有田焼に関わる人の話から有田焼の歴史的背景やそのつくり方などを調べ、必要な情報を集め、読み取っている。	○有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などを理解している。 ○有田町では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。

【新しい評価の観点による評価規準】

※新学習指導要領の評価の観点で示した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
○有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などを理解している。 ○有田町では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 ○地図帳や各種の資料で調べ、新聞などにまとめている。	○資料や写真についての気付きや疑問をもち、学習問題を考え、表現している。 ○学習問題の解決に向けて調べる必要があることとその方法について考え、ワークシートに記述している。 ○有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	○伝統的な技術を生かした有田焼が盛んな有田町について、興味をもち意欲的に調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味について粘り強く考えようとしたり、調べたことや考えたことを表現しようとしたりしている。

※佐賀県教育センター「プロジェクト研究（小学校社会科教育研究委員会）」の試案である。

5 単元計画 (全12時間 本時 1/12) …質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習問題をつかむ	○有田焼への気付きや疑問を基に学習問題 I を設定する。	○有田焼への気付きや疑問を基に学習問題 I を設定できるように、児童の発言やつぶやきに「なぜ?」「本当?」と問い返したり、有田焼に関する資料を見せたりする。	・資料や写真についての気付きや疑問をもち学習問題 I を考え、表現している。【思】	1 本時 (1/12)
	有田焼は、どんなれきしがあり、どうやってつくっているのだろうか。(学習問題 I)			
	○学習計画を立てる。	○学習問題 I の解決に向けて、有田焼について知りたいことを基に学習計画を立てさせる。	・学習問題 I の解決に向けて調べる必要があることとその方法について考え、ワークシートに記述している。【思】	1
調べる	○学習問題 I を解決するために有田焼の歴史的背景とそのつくり方について調べる。	○副読本「わたしたちの佐賀県」や有田焼に関する資料を基に歴史的背景とそのつくり方について調べさせる。 ○調べ学習への意欲を高めることができるように、インターネットのWebページから副読本に書かれていない内容の情報を印刷して配付する。	・伝統的な技術を生かした有田焼が盛んな有田町に興味をもち意欲的に調べている。【関】 ・副読本や資料、インターネットのWebページなどから有田焼の歴史的背景やそのつくり方などを調べ、必要な情報を集め、読み取っている。【技】	2
		○学習問題の解決を意識して調べ学習を進めていけるように、学習問題 I の内容に注目させたり、本時の課題とのつながりについて考えさせたりする発問や声掛けをする。	・有田町の自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などを理解している。【知】	
	○学習問題 I を解決するために有田焼に関わる人々の様子やその思いについて調べる。	○これまでの調べ学習で分からなかったことを調べるように、実際に有田町に見学に行く。 ○有田町の様子を見たり、有田焼の商店や窯元の人など	・伝統的な技術を生かした有田焼が盛んな有田町に興味をもち意欲的に調べている。【関】 ・有田焼に関わる人々の話から有田焼の歴史的背	3

		有田焼に関わっている人々に話を聞いたりさせることで、有田焼に関わる人々の様子やその思いを考えることができるようにする。	景やそのつくり方などを調べ、必要な情報を集め、読み取っている。 【技】	
考え ・ ま と め る	○学習問題Ⅰに対する答えを記述し、交流する。 【期待するまとめの例】 今から 400 年ほど昔、朝鮮から来た李参平によって焼き物づくりが始められた。 有田焼は、採石から出荷までたくさんの工程を経てつくられる。	○学習問題Ⅰの答えとして、自分の考えを記述することができるように、これまでの調べ学習や見学から学んだことを、「きっかけ」と「つくり方」という観点をもたせた上で新聞作成に取り組ませる。 ○学級としての答えをまとめることができるように、互いに読み合い交流させ、調べたことを関連付けていく。	・有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などを理解している。 【知】 ・有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色について考え、適切に表現している。 【思】	2
学 習 問 題 を つ か む	○有田町のまちづくりや観光への気付きや疑問を基に学習問題Ⅱを設定する。	○有田町のまちづくりや観光への気付きや疑問を基に学習問題Ⅱを設定することができるように、窯元の煙突をサンタの人形がよじ登っている写真（有田町黒牟田応法地区）と「秋の有田陶磁器まつり」のダイレクトメールのパンフレットを見せる。 ○有田焼がまちづくりや観光などの産業の発展に大きく関わっていることを伝え、予想を引き出しながら、どのように生かしているのか疑問をもつことができるようにする。	・資料や写真についての気付きや疑問をもち学習問題Ⅱを考え、表現している。 【思】	1
	有田町は、有田焼を使ってどのようなまちづくりをしているのだろうか。（学習問題Ⅱ）			

調べる	○有田町が行っている有田焼に関連したまちづくりや観光について調べる。	○副読本「わたしたちの佐賀県」や有田焼に関するパンフレット等の資料を基に、有田焼に関連したまちづくりや観光について調べさせる。 ○学習問題解決を意識して学習を進めていけるように、学習問題Ⅱの内容に注目させたり、本時の課題とつながりについて考えさせたりする発問や声掛けをする。	・伝統的な技術を生かした有田焼が盛んな有田町に興味をもち意欲的に調べている。【関】 ・副読本や資料、インターネットのWebページなどから有田焼に関連したまちづくりや観光について調べ、必要な情報を集め、読み取っている。【技】 ・有田町では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。【知】	1
考え・まとめる	○学習問題Ⅱに対する答えを記述し、交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【期待するまとめの例】 有田町は、伝統的な技術を生かした焼き物づくりが盛んで、人々はその伝統や技術を大切にし、そのよさを生かしたまちづくりに取り組んでいる。</div>	○有田町が行っている有田焼に関連したまちづくりや観光について学級としての答えをまとめることができるように、互いに読み合い交流させ、調べたことを関連付けていく。	・有田町では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。【知】 ・有田町の位置や自然環境、人々の活動や有田焼の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色について考え、適切に表現している。【思】	1

6 本時の目標

有田焼に関する資料や写真についての気付きや疑問をもち、学習問題を考え、表現することができるようにする。
【社会的な思考・判断・表現】

7 展開(全12時間 本時 1/12)

 …質的改善を図った手立て

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 有田町に関する写真を見て、気付いたことを交流する。 (全体)	○嬉野町と有田町の街並みや小学生の活動の写真を見せ、嬉野町はお茶が盛んであるが、有田町は焼き物が盛んであることに注目することができるようにする。 ○普段の有田町の写真を見せ、人口が約2万人であること

<p>2 本時のめあてを知る。 (全体)</p>	<p>を伝えた後、有田陶器市の写真を見せ、約124万人が有田焼を目的に訪れている事実に出会わせることで、児童が有田焼への関心を更に高めることができるようにする。</p>
<p>めあて 有田焼について学習問題をつくろう。</p>	
<p>3 有田焼に関する資料や写真を通して気付いたことや疑問に思ったことを書いて、話し合う。 (個人→ペア→全体)</p>	<p>○本物の有田焼と100円の焼き物を提示して「どちらが有田焼か」などの発問を行い、児童に有田焼の見た目や値段について気付きや疑問をもたせる。</p> <p>○有田焼に関する資料や写真への気付きや疑問を整理して考えることができるように、ワークシートに(!)気付き、(?)疑問と区別して書くように伝える。</p> <p>○気付きや疑問が書けた児童は教師の元へノートを持ってくるように伝え、書いた内容を確認するとともに児童に自信をもたせる。</p> <p>○多くの考えに触れさせるとともに、書くことに難しさを感じている児童の参考になるように、自由にペアを組ませ、多くの児童と交流する時間を取る。</p> <p>○気付きや疑問を学習問題の観点(「れきし」「つくり方」)に焦点化していくために、「有田焼の値段が高いのはどうしてか？」など疑問に対する予想を問い返ししながら、全体で気付きや疑問を発表させ共有していく。</p>
<p>「つくり方」 (!)色がきれい。(白、赤など) (→)どのようにして色をつくっているのか。 (→)どのようにして色を塗っているのか。 (!)絵が上手。 (→)どのようにして、絵を描いているのか。 (?)どうやってつくっているのか。 (?)値段が高いのは、特別なつくり方をしているからなのか。 (?)値段が高いのは、つくるのに時間が掛かるからなのか。 (?)機械を使わずに、一つ一つ手づくりしているのか。</p>	<p>2つの観点で分けて黒板に書く。 ※(!)気付き、(?)疑問、(→)問い返し</p> <p>「れきし」 (!)有田町ではたくさんの人が有田焼をつくっている。 (→)昔から、たくさんの人がつくっていたのか。 (?)いつから焼き物づくりが始まったのか。 (?)100年くらい前から始まったのかな。 (?)どうして有田町で焼き物をつくっているのか。 (?)有田町は焼き物をつくりやすい場所なのかな。 (?)焼き物をつくる名人がいたのかな。 (?)焼き物の材料がたくさんあったのかな。</p>
	<p>○児童の考えが分かれたところや観点(「れきし」「つくり方」)に関わるには、印を付けて強調し、「分からないこと」として意識させる。</p> <p>○児童の追究意欲を高めるために、予想に対して「本当?」「どうして?」「調べないと分からないね」と声を掛け、疑問や予想を板書していく。</p>

